

## 平成 31 年度三重大学国際交流事業実施報告書 (学内版)

1. 申請部局

学部・研究科名等： 医学系研究科

事業担当者の職・氏名： 医学医療教育学 准教授・櫻井洋至

内線電話番号： 6412

電子メール： [hirodon@clin.medic.mie-u.ac.jp](mailto:hirodon@clin.medic.mie-u.ac.jp)

2. 事業の名称 (20 字以内, 別に副題を付けても良い)

海外協定大学との学生交換事業

3. 事業内容の別 (該当するところにチェックを入れてください。)

教職員, 学生の海外派遣 (学会やシンポジウム等の出席は除く)

海外交流機関等からの教職員, 学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

#### 4. 事業の取組結果

**以下の事項について記述してください。ページ数は問いません。**

##### (1) 事業概要（簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください）

医学部医学科では、海外の学術協定大学との交流を基盤とする学部入学時から大学院まで継続して国際的な教育環境で学ぶことができる教育プログラムを展開している。本助成は、これらの教育活動の一部に活用した。

学部教育では、第 1-2 学年次の医学英語教育（外国人非常勤講師 2 名、日本人医学部教員 2 名、外国人留学生 TA 若干名が担当、必修授業）、第 1 学年後期の国際保健講義（オムニバス形式、必修）、第 1-4 学年対象早期海外体験実習（タイ、米国、インド、ドイツで実施、希望者）、第 6 学年対象海外臨床実習（タンザニア、ザンビア、インド、タイ、中国などで実施、選択）のプログラムを実施した。

平成 31 年度の選択型実習に参加した学生数は以下の通りであった。

早期海外体験実習・29 名、海外臨床実習・57 名。

また、これらの学生の海外派遣と並行して、海外学生の短期受け入れを実施しており、これらのプログラムでは、国際感覚を持って医療に貢献する人材の養成、若い世代による国・地域を越えたパートナーシップの構築、学内教育環境の国際化を目標に掲げており、これらの活動は、平成 19 年度の海外臨床実習の体系化から開始し、上記のような有機的な繋がりのある教育プログラム群として発展している。学部学生の受け入れは、相互に同程度規模での実施に至っていないが、大学院での国際推薦制度、外国人留学生優先配置事業により、アジア・アフリカにある協定校からの大学院生への奨学金制度を実施しており、双方性のプログラムとなるよう努めている。

##### (2) 事業の背景・これまでの実績

これらの活動は、平成 18-21 年度特色ある大学教育支援プログラム採択課題「海外医学部と連携した臨床医学教育」（以下、特色 GP）、平成 21-23 年度大学教育・学生支援推進事業〔テーマ A〕大学教育推進プログラム採択課題「保健医療の国際化に対応する医学教育」（以下、教育 GP）の 2 事業を通して世界各地の大学医学部との学術交流基盤を確立した。この交流基盤を活用し、平成 19 年度より第 6 学年時の選択型臨床実習に大規模な海外臨床実習を導入した。この第 6 学年次海外臨床実習に参加した学生を対象にした事業評価では、医学部入学後早期からの海外での体験的実習を希望する学生の声が多く聴かれたため、第 1-4 学年学生を対象にした早期海外体験実習、第 4-5 学年を対象にした海外リサーチインターンシップを導入した。さらに、学内教育環境の国際化を目指して、海外交流大学からの学生受け入れを拡充している。

##### (3) 事業実施結果

###### 1) 第 6 学年学生対象海外臨床実習

平成 31 年度海外臨床実習には、57 名の第 6 学年学生が参加した。内訳は以下の通りであった。

ザンビア大学（ザンビア）・8 名

ムヒンビリ大学（タンザニア）・8 名

シャルジャ大学（アラブ首長国連邦）・7名  
カーディフ大学（英国）・5名  
タマサート大学（タイ）・9名  
ペルージャ大学（イタリア）・4名  
フィリピン大学レイテ保健学部（フィリピン）・1名  
ワシントン大学（米国）・6名  
サンパウロ大学（ブラジル）・2名  
ヤンゴン小児病院（ミャンマー）・2名  
上海交通大学（中国）・3名  
アムリタ大学（インド）・2名

本実習に対する参加学生からの評価は高く、語学力養成、多文化理解、熱帯病の診療経験、海外の医療制度・保険制度の理解、医療と社会・文化との関係の理解、基本的臨床技能・臨床推論の向上などの教育効果がみられている。

### 2) 第1-4学年対象早期海外体験実習

平成31年度の実習では、夏期休暇を利用して米国・ワシントン大学、タイ・コンケン大学及びラオス・健康科学大学、インド・アーナンダ病院、中国・上海交通大学また看護学科ではタイ・チェンマイ大学とドイツ・フライブルクカトリック大学へ合計29名の学生が早期海外体験実習に参加した。本実習は、医学部入学後早期より先進国、開発途上国の研究や診療現場を実体験し、また、英語でのコミュニケーションを学ぶ体験型実習となっており、参加学生の帰国後の学習への動機づけに有効に作用している。

### 3) 海外交換学生の本学臨床実習、研究活動への受入れ

平成31年度は、中国・上海交通大学・2名、アラブ首長国連邦・シャルジャ大学・9名、タイ・コンケン大学・11名、タイ・タマサート大学・2名、インド・アムリタ大学・3名、イタリア・ペルージャ大学 3名、イギリス・カーディフ大学 2名の合計・32名の海外協定大学からの交換学生の受入れを行った。

本事業費は、早期海外体験実習での同行教員旅費および海外からの受け入れ学生の宿泊費（ウィークリーマンション借上げ費等）の一部として支出した。尚、本学学生がこれらの大学での臨床実習に参加する際には、無料の宿舍提供を受けている。本事業経費は、総額で221万円であり、うち海外からの受け入れ学生の宿泊費（ウィークリーマンション借上げ費）に支出したうちの25万円分に本助成金をあてた。

### (4) 事業の意義

急速なグローバル化の流れのなかで医学教育に対する社会からの要請は大きく変化し、“国際性豊かな人材”、“国際社会で活躍する人材の育成”が求められている。この社会的ニーズに応えるために、学生が疾病構造、医療文化、医療制度の異なる海外の保健医療に触れることの意義は大きい。医学科国際化教育プログラムは、これまでに実績を積み上げてきた海外交流大学との学生交換事業の持続的発展を図ることにより、国際保健医療の現場で活躍する人材と国際感覚を持って地域医療に貢献する人材の養成を目指すものである。本事業は、海外の保健医療現場でグローバルヘルスを学ぶ機会を継続して提

供するということに加え、海外からの学生の受入れを通して学内教育環境の国際化を図るという特色を持っている。海外からの学生の受入れは、海外実習に参加しない学生に対しても専門語学力の修得や多文化理解のための学習環境が提供されるというメリットがある。以上より、本事業は、すべての学生を対象に保健医療領域でのグローバル人材の育成を図る教育活動であるという点で意義が大きいと考えている。また、これらの教育的効果を評価する研究を開始している。

#### (5) 事業の発展性

これらの国際化教育プログラムで学んだ学生は、学部卒業後も国際推薦制度にて来学した学生との共同研究、海外研究フィールドでの国際共同研究や海外留学へと段階に国際性を修得できる連続性のあるプログラムに参加する機会がある。さらに、これらの教育カリキュラムから発展して、海外学生との文化交流を図る学生のサークル（MIEプロジェクト）やラオスの協定大学から本学に来学する学生に対する経済的支援を目的とする募金活動を行う学生団体（Heart Trees）が活動を開始しており、学生の自主的な学びや社会貢献が行われる状況がある。

#### (6) 中期目標・中期計画における位置づけ

##### ① 中期目標

グローバル化に関する目標である「1（大学と地域のグローバル化推進） 世界で活躍できるグローバル人材を育成し、国際教育・国際共同研究を充実させるために、地域社会や世界各国の大学との交流活動を活発化させ、海外の大学等との学生と研究者の相互交流を増加させる。」に沿った教育活動である。

##### ② 中期計画

「1 世界で活躍できるグローバル人材を育成するために、在学中に海外留学や国際会議などで海外へ派遣するための海外渡航支援制度や、ダブルディグリープログラムをはじめとしたアジアを中心とする海外からの留学生受入れプログラムを見直し、海外渡航学生数については入学定員の20%とし、受入留学生数については第2期の平均に比べ10%増加させる。」に沿った教育活動である。

#### (7) その他

特になし。



## 平成 31 年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

三重大学医学部では、国際感覚を持って医療に貢献する人材の養成、若い世代による国・地域を越えたパートナーシップの構築、学内教育環境の国際化を目指して、本学学生と海外の交流大学（大学間及び学部間協定大学）学生を対象にした学生交換事業を推進している。具体的には、医学科第 6 学年学生を対象にした海外臨床実習（4-8 週）、医学科および看護学科第 1-4 学年学生を対象にした早期海外体験実習（1-2 週）による本学学生の海外派遣、海外交流大学学生の本学附属病院での臨床実習への受入れを行っている。平成 31 年度は、三重大学国際交流推進経費の助成を受けて、以下の海外臨床実習、早期海外体験実習、海外交換学生の本学への受入れを実施した。

海外臨床実習には、57 名の第 6 学年学生が参加し、実習大学は、ザンビア大学（ザンビア）、ムヒンビリ大学（タンザニア）、シャルジャ大学（アラブ首長国連邦）、カーディフ大学（英国）、タマサート大学（タイ）、ペルージャ大学（イタリア）、フィリピン大学レイテ保健学部（フィリピン）、ワシントン大学（米国）、サンパウロ大学（ブラジル）、アムリタ大学（インド）、ヤンゴン小児病院（ミャンマー）、上海交通大学（中国）の計 12 大学であった。

第 1-4 学年学生対象早期海外体験実習では、医学科で米国・ワシントン大学、タイ・コンケン大学及びラオス・健康科学大、インド・アーナンダ病院、中国・上海交通大学、また看護学科ではタイ・チェンマイ大学とドイツ・フライブルクカトリック大学へ合計 29 名の学生が参加した。

また、中国・上海交通大学・2 名、アラブ首長国連邦・シャルジャ大学・9 名、タイ・コンケン大学・11 名、タイ・タマサート大学・2 名、インド・アムリタ大学・3 名、イタリア・ペルージャ大学・3 名、イギリス・カーディフ大学・2 名の合計・32 名の海外協定大学からの交換学生の受入れを行った。

それぞれのプログラムは、導入後数年間を経て、安定的に運営され、持続性のある活動になっている。

また、大学院医学系研究科が実施する外国人留学生国際推薦制度と学部での本事業により、双方向性の国際交流が実現している。

## 平成 31 年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：英語版）

Faculty of Medicine at Mie University actively promotes student exchange programs between our university and overseas partner universities (including inter-faculty and inter-university agreements), aiming to develop health care professionals who are capable of contributing to the field of medicine with international mindset, to build partnerships among young generation from different countries and regions, and to offer an international educational environment to our students. We provide an overseas clinical training program for the 6<sup>th</sup> year students of the Faculty of Medicine (4-8 weeks) and an early overseas program for 1<sup>st</sup> to 5<sup>th</sup> year students of the Faculty of Medicine and the Faculty of Nursing (1-2 weeks). We also accept students from overseas partner universities to do their clinical trainings at our teaching hospital. In the fiscal year 2019, as described below, we conducted an overseas clinical training program for 6<sup>th</sup> year students, an early overseas study program for the 1<sup>st</sup> to 5<sup>th</sup> year students at the same time as accepted students from overseas partner universities by utilizing the grant provided by Mie University International Exchange Program Fund.

57 students participated in the overseas clinical training program (for the 6<sup>th</sup> year students) and underwent one month training at University of Zambia, Muhimbili University of Health and Allied Sciences (Tanzania), University of Sharjah (UAE), Cardiff University (UK), Thammasat University (Thailand), Perugia University (Italy), University of Washington(USA), Sao Paulo University (Brazil), Amrita Institute of Medical Sciences (India), Shanghai Jiaotong University(China), Yangon Children's Hospital(Myanmar) and University of Philippine at Leyte.

29 students in total participated in the early overseas study program (for the 1<sup>st</sup> to 5<sup>th</sup> year students) and attended one to four weeks program at University of Washington (USA), KhonKaen University (Thailand)/ Health Science University in Lao (Lao), Ananda Hospital(India), Shanghai Jiaotong University(China), Chiang Mai University(Thailand) and University of Freiburg(Germany) .

Furthermore, we accepted 32 exchange students from overseas partner universities, namely Shanghai Jiao Tong University (China), University of Sharjah (UAE), KhonKaen University (Thailand), Thammasat University (Thailand), Cardiff University (UK), University of Perugia (Italy) and Amrita Institute of Medical Sciences (India).

After having been implemented for several years, these programs are now becoming increasingly sustainable in terms of stable management. The activities are mutual in collaboration with the special PhD course program for students of foreign sister institutes.